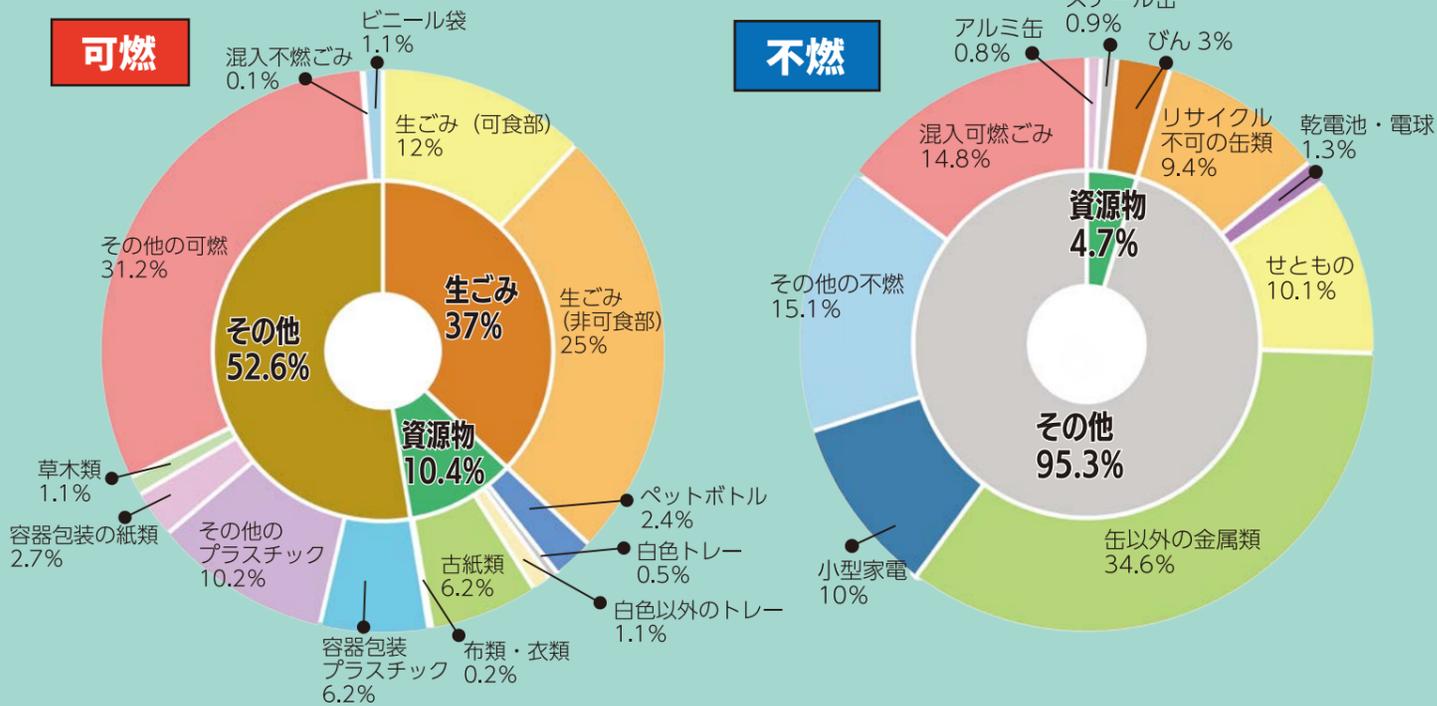


ごみの減量・分別・リサイクルにご協力を!!

ごみ組成調査結果

市では、今後の基礎資料を得ることを目的に、市内のごみ集積所を無作為に抽出し、家庭から排出されるごみがどの程度分別されているか分析する「ごみ組成調査」を毎年1回実施しています。令和7年11月に実施した調査結果は、以下のグラフのとおりです。



ごみの多くは「水分」です

家庭から出る可燃ごみの多くは水分を含んでいます。特に生ごみは約80%が水分といわれています。生ごみを出す前に水気を切るだけでも、ごみの量や重さを減らすことができ、焼却時の燃料削減にもつながります。ほんのひと手間ですが、大きな効果があります。

紙はリサイクルしましょう

紙類は、可燃ごみに混ぜてしまえば「ごみ」ですが、分別すれば「資源物」になります。

これまで何気なくごみ箱に捨てていた紙は、ごみ箱に捨てずにリサイクルしましょう。

STEP 1 工夫して紙を節約しましょう

- 両面印刷や 2in1 印刷 (1枚の紙に2ページ分を印刷) をする
- 裏面が使える紙はメモ用紙などに再使用する

STEP 2 発生した古紙は種類ごとに分別しましょう

- 古紙を分別しましょう
コピー用紙、新聞・チラシ、本・雑誌、ダンボール、紙パック、雑紙 (封筒、メモ用紙、お菓子の空き箱、包装紙 など)
- 種類ごとにひもで十字に結んでください。
小さい紙は中に挟み込むか、紙袋に入れてひもで結んでください。
※ひもで結んでいないもの、ダンボールに詰め込んだもの、ガムテープやラップなどでまとめたものは、収集できません。
- 各地区の資源物が出せる集積所のほか、公共施設でも古紙を出すことができます。詳しくは市ホームページをご覧ください。

ごみの分別や収集について詳しくは市ホームページをご覧ください。



ごみを減らして環境負荷の軽減を!

ごみを焼却すると、二酸化炭素が発生し、環境への負担が生じます。ごみの量を減らすことは、焼却量を減らし、温室効果ガスの排出削減にもつながります。

限りある資源を大切に使い、環境への負担を抑えながら暮らしていくことは、持続可能な社会の実現に欠かせません。ごみを減らす取り組みは、未来の環境を守るための基本的な行動です。今できることを続けていくことが、次の世代へ豊かな環境を引き継ぐことにつながります。



食品ロスを削減しましょう!

食品ロスとは、まだ食べることができたのに捨てられてしまった食品のことです。食品を食べずに捨ててしまう理由は、賞味期限切れなどによる「直接廃棄」、野菜の皮を厚くむくなどの「過剰除去」、食事を食べきれずに残して廃棄した「食べ残し」の3つが挙げられます。

食品ロスは、ごみ組成調査における可燃ごみの「可食部」に該当し、全体の12.0%を占めています。食品ロスを減らすために次の3点を心がけ、食品ロスの削減にご協力をお願いします。

- 1 買い過ぎない (賞味・消費期限切れによって廃棄しないように食べられる量を購入する)
- 2 使い切る (野菜の皮などを過剰除去せず、食べられる部分は可能な限り食べる)
- 3 食べ切る (出されたものは、なるべく残さず食べる)

ペットボトルの出し方

- ① 中を水洗いする
- ② キャップとラベルをはずす
- ③ ペットボトル回収ネットにペットボトルとはずしたキャップを入れる



空かん・空びんの出し方

- ① キャップを取り、中を水洗いする
- ② 4種類に分別する (かん、無色透明びん、茶色びん、その他色びん)



布類・衣類

古布回収 BOX を施設内に設置しています。
・千代川公民館
・下妻公民館
・大宝公民館
・働く婦人の家
・勤労青少年ホーム



資源物はごみ袋に入れないで!
リサイクル可能な資源物の混入割合は「可燃ごみ」で全体の10.4%、「不燃ごみ」で全体の4.7%となっており、そのうちの古紙類が最も多く6.2%を占めています。市では、飲食料品のかん・びん・ペットボトル、古布、古紙、食品用トレイ! 透明容器を資源物として回収しています。分別を徹底することでさらに資源化を進めましょう!